

友よ、老いて佳し

されど、老けてはならぬ

昭和21・22卒 首都圏「秋中14日会」

旧制秋田中学、秋中14日会が。これは、故小林宏君のあとを受け、和田明君という抜群のコーディネーターなしでは、再会をかさねるたのしさが醗酵するわけがない。

同会は、もともと首都圏に在住する県立秋田中学（現・秋田高校）の昭和二十一年卒と昭和二十二年卒の同期のついでで、これまで、毎年一月十四日に再会しようと誓いあつて別れ、歳月を重ねた七十六歳。

当然ながら、一足さきに黄泉に旅いそぐ同期の桜に鎮魂



を捧げ、一方、瀬戸内は呉市より半世紀余の歳月の空白を一気に埋めて馳せ参ずる級友、毎年、静岡県

は藤枝市より、はたまた首都圏なみに欠席のためしなしという仙台からの元気印の仲間、そして、ときには、母校の地元・秋田より連れだつて加勢に駆けつけるなつかしき旧友たち。

これら同期の仲間が気安くつどえる会場。新宿はハイアットホテル社長の席に長きことありし、同期の加藤三朋君の変らぬ特別のご高配によるもの。

まさに、なつかしく、おいしく、うれしく、ありがたき「秋中14日会」であつた。別れは、いつも、この人、クラシックの指揮者が、たちまち応援団長に変身する佐藤菊夫君の母校の愛唱歌のメドレーとなる。友よ、老いて佳し、

新加賀屋氏が 札幌支部総会

十月十三日（土）ホテルノースステイ（札幌市）にお



されど、老けてはならぬ。夢とロマンは無税なり。（筆者は、本年当番の築山小学校グ

いて札幌支部総会が開催された。本部・母校から辻会長、柴田学校長、仙波事務局長を来賓としてお迎えし、総勢三十八名と盛会であつた。

播磨屋敏生支部長（昭和三十五卒）の挨拶、事業報告や予算承認の後、役員改選が行われた。三期九年と長きに渡り支部長の要職を務められた播磨屋支部長より、新支部長として加賀屋誠一氏（昭和四十一卒）が推薦され、満場一致で承認された。他の役員・幹事は三名が新任、十名が再任となつた。



37会、45周年記念総会

藤原君が秋銀頭取 吉村君が秋大学長に

我が昭和三十七年卒同期生の卒業四十五周年記念総会が、十一月十日（土）、十一日（日）の両日、大潟村「ホテルサンルーラル大潟」において開催された。出席者は高橋壽一先生以下三十七名。

総会の司会は佐藤忠次君。役員改選では新会長に寺田俊

夫君を選出したほか、四十七名の新役員が選任された。

記念講演は山本組合病院長の大淵宏道君。乾杯の音頭は、芦屋市から十三時間かけて馳せ参じた田淵瞭君。その後県外からの出席者と初参加者の十二名が近況を報告。ゴルフコンペの表彰式も行われ、東京支部長伊藤清信君の中締めを締めくくつた。

また、総会の年度ごとに発

行している同期会機関誌「紅顔日に日に」は第七号を数えることとなつたが、編集長熊谷邦夫君の奮闘により、八十頁のオールカラー版として総会に間に合わせて発行。出席者から大好評であつた。なお、藤原清悦君が秋田銀行頭取に、吉村昇君が秋田大学学長に就任したことはまことに喜ばしく心から健闘を祈る。

（37会事務局、関徹彌・記）

辻会長のご祝辞の後、柴田学校長からは進学状況やクラブ活動など母校の近況についてお話があり、先に開催された「二〇〇七秋田わか杉国体」での秋高生の活躍ぶりが紹介され、参加者一同秋田へと思いを馳せた。中川重刀氏（昭和十九卒）のご発声で乾杯祝宴は終始和やかな雰囲気で行われ、最後は校歌と「フレ！フレ！秋高」のエンルが会場内に高らかに響いた。

（昭和61年卒・佐々木宏志）

つどい